

2022 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成について、計 8 件の企画が採択されました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

2022 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募選考委員（あいうえお順）

- 田中 優（未来バンク理事長）
- 野島靖智（株式会社すいてん ディレクター）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- マエキタミヤコ（サステナ代表）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学名誉教授／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト代表理事）

Sanda Organic Action!（広報・社会訴求、政策提言）

さんだオーガニックアクション（申請者：前田奈穂）

未来を担う子どもたちの食事の約3分の1を占める給食がネオニコフリーの食材で提供されること、また、それを起点として三田市が市政全般において、持続可能でオーガニックな街づくりを推進するきっかけとなることを目的として、三田市内の学校給食への有機食材導入を目指す。

同時に、無農薬での米・野菜づくりを体験する機会の提供や、農薬の危険性等について学ぶ学習会を開催し、街全体でオーガニックの気運を高めていくことを目的として、「さんだオーガニックアクション」の活動を展開する。

農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較（調査・研究、広報・社会訴求）

特定非営利活動法人 西日本アグロエコロジー協会（申請者：池上甲一）

兵庫県丹波市と滋賀県高島市において、田植及び出穂期の前後4回の生き物調査及び農薬の残留濃度分析を行い、浸透性農薬を中心に農薬による圃場生態系への影響を検証する。有機農業と慣行農業の水田及び転作田からサンプルを採取し、ポストネオニコ農薬を含めて残留濃度を解析する。その結果を、農家及び消費者家族の意識向上のために実施する参加型の生き物調査と対照する。成果は報告会、小冊子により情報発信する。

浜名湖流域のネオニコチノイド系農薬の流出源の特定と地下水への影響、水生昆虫とアサリのネオニコ残留濃度と分解産生物質の測定、及び浜名湖の動物プランクトン(カイアシ類)調査(調査・研究)

辻野兼範

浜名湖流域の水田地とミカン栽培地のどちらがネオニコの流出が大きいのか調査する。同時に調査河川の水生昆虫の生息状況と体内のネオニコの残留と分解産生物質を調査する。浜名湖の生態系への影響評価のために動物プランクトン(カイアシ類)の調査と体内のネオニコの残留と分解産生物質を調査する。地下水へのネオニコ浸透の影響を調べるために、ミカン栽培地集水域と対照として田畑の少ない住宅地、商業地の地下水の調査を実施する。調査結果を公開し市民への啓発活動を行う。また、市民と農家にネオニコへの意識調査を行い啓発活動に利用する。

岐阜県の給食をオーガニックにするための上映ツアー(広報・社会訴求)

服部 晃

「食の安全を守る人々」と「子どもをネオニコから守ろう」の上映会。「食の安全を守る人々」はネオニコチノイドとラウンドアップ、ゲノム編集の問題に取り組み、学校給食のオーガニック化に希望をみいだすもの。「子どもをネオニコから守ろう」はネオニコの人、特に子どもへの影響を取り上げた新しい映画で2月完成。(アジア太平洋資料センター製作)県内9都市で開催予定。

女性農業従事者の尿中ネオニコチノイド系農薬検出実態調査(調査・研究)

一般社団法人 農民連食品分析センター(申請者:八田純人)

ネオニコチノイド系農薬について、散布作業に従事する農業従事者を中心的対象として暴露状況を調査した報告は少ない。女性の農業従事者を中心に、尿からの検出調査をおこない、実態をとりまとめ、Web や新聞記事として公表、ネオニコチノイド系農薬を取り巻く議論を深めるための材料とした。

#デトックスやろう #カエルもわかる農薬の話(広報・社会訴求)

くまもとのタネと食を守る会(申請者:間 澄子)

昨年は特別栽培で多用されているネオニコチノイドの問題などを、若者に届くようにと、講座とワークショップを開催し、InstagramやYouTubeによる配信をおこなった。その結果、講座参加者(店舗)が尿検査を使ったデトックスプロジェクトを実施する企画を立ちあげ、現在実施中である。その広がりを一過性のものとせず、私達も継続企画として連携し、広げながら、内容を次世代を担う世代に伝えるように深めていく。また、ネオニコチノイド0を国が言い始めたが、その代替農薬といわれるRNA農薬についても学ぶ。

神経回路形成期の時期特異的ネオニコチノイド曝露影響と発達神経毒性の継世代評価 (調査・研究)

神戸大学大学院 農学研究科 動物分子形態学分野 星研究室(申請者:星 信彦)

胎子・授乳期などの発生・発達期は、脳機能形成において最も重要な時期に相当し、この時期にネオニコチノイド系農薬(ネオニコチノイド)に曝露すると生後の情動を司る脳神経系および行動に悪影響を及ぼすことが先行研究から示されている。本研究では、神経回路形成期を①「神経細胞増殖・分化期」、②「神経突起伸長期」、③「シナプス形成・アストロサイト分化期」および④「シナプスリモデリング期」の4ステージに分け、ステージ別に無毒性量のネオニコチノイドを曝露し、どのステージにおける影響が発達神経毒性の要因となるのか検証する。また、胎子・授乳期におけるネオニコチノイド曝露が及ぼす神経行動学的な継世代影響を検証する。

ため池や自然止水域におけるネオニコチノイド系農薬汚染と絶滅危惧水生昆虫の生息状況 IV 新たに曝露試験と虫体からの農薬検出の試行(調査・研究)

苅部治紀

申請者は、3年間の貴助成により止水域でのネオニコチノイド系農薬の汚染実態と昆虫相比較から、1)国内広域で検出、2)絶滅産地で高濃度の検出、現存産地でも検出、3)汚染は地下水系に及ぶ、など深刻な実態を明らかにしてきた。しかし、この間新型コロナ緊急事態の影響で、多くの期間で調査が実施できなかった。本研究では、農薬濃度が高い初夏や未調査地域の調査、高濃度汚染地と隣接地の比較、虫体の汚染実態試験、未着手だった農薬の曝露試験研究などによりさらに研究を深化させる。